



伊禮拓郎

大正時代に沖縄の歴史文化を研究した鎌倉芳太郎先生。その調査記録は現在、県立芸術大学を中心に保管されています。

その鎌倉先生の調査記録をまとめた大著に「沖縄文化の遺宝」があります。元々、伊東忠太博士とともに実施した大正時代の調査ですが、戦後しばらくして伊東博士が亡くなったため、鎌倉先生が一人で刊行することになったようです。

刊行のきっかけは、1971年に琉球政府立博物館で開催された「日本古美術展―くらしの中の美―」の講演会のため、34年ぶりに鎌倉先生が来沖されたことにさかのぼります。

その際に沖縄の現状を目の当たりにした先生は、大正時代に撮影した写真を沖縄再建のために役立てたいとの思いが募り、72年に琉球政府立博物館とサントリー美術館で写真展を開催するに至りました。

この展示会を経て、かつての研究成果をまとめるという意欲が高まり調査開始から約60年後の82年に「沖縄文化の遺宝」が刊行されます。刊行後、多くの研究者らが本書をもとに研究を広げてきました。

近年では、県立芸術大学と東京文化財研究所の共同研究として、鎌倉先生が撮影した写真を高精細デジタ

ル化する事業が実施され、同書に掲載されていた写真がよりクリアに見えるようになりました。

県立博物館が実施している復元事業でもこの高精細化された写真を基に、沖縄戦で消失し、写真にしか残っていない股元良作の「粟鶉図」と向元瑚作「桐牡丹鳳凰図」の復元に取り組んでいます。

「桐牡丹鳳凰図」は「沖縄文化の遺宝」において、全体図と部分拡大図の2枚が掲載されています。しかし、この写真をよく見ると、実は細部が異なる別の作品であることが分かりました。これをきっかけに鎌倉先生の調査ノートを見返すと、同じ作者の同じ構図の絵を二つ調査していることがわかりました。

「沖縄文化の遺宝」を執筆された際には調査からかなりの年数がたっており、いくつか記憶違いが生じていたと思われる。ただ、これは鎌倉先生の業績にけちをつけたいわけでも、あらを探したいわけでもありません。いつだって先学の研究を検証するのは後学の務めなのです。

これらの研究成果の発表会が15日午後2時から、県立博物館の講堂で開催されます。調査研究の最前線を紹介したいと思しますので、ぜひお越しください。

(県立博物館・美術館学芸員)

